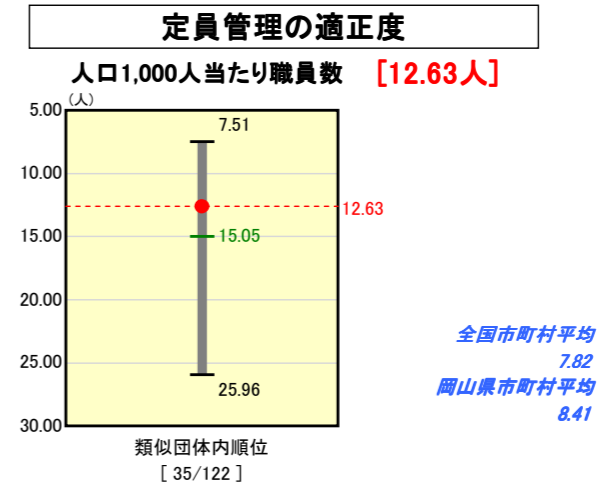
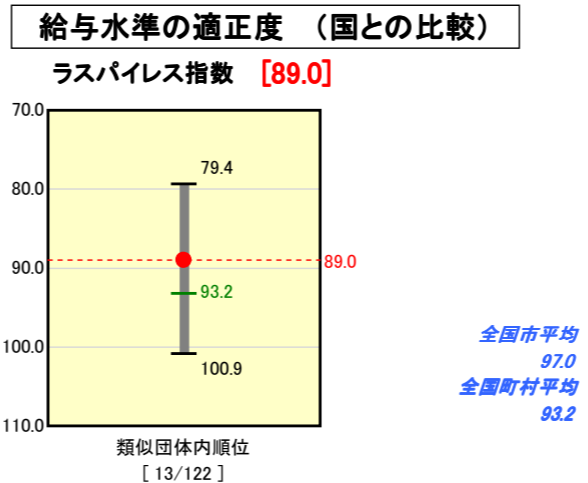
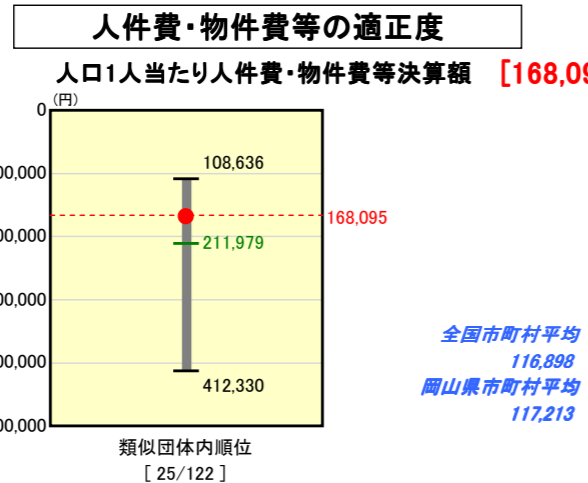
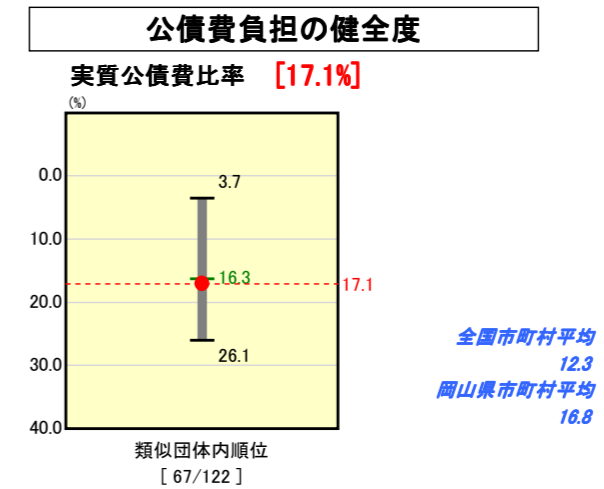
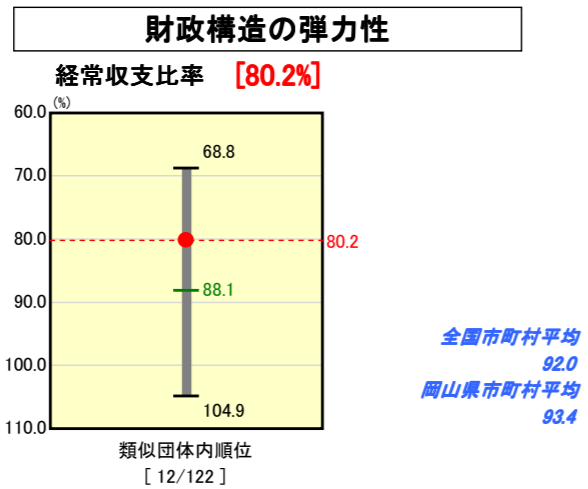
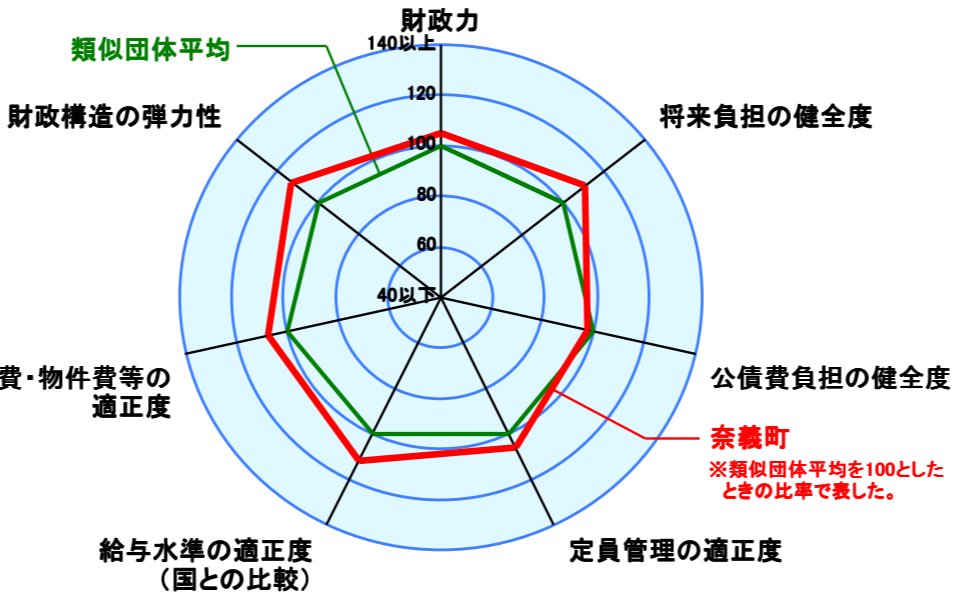
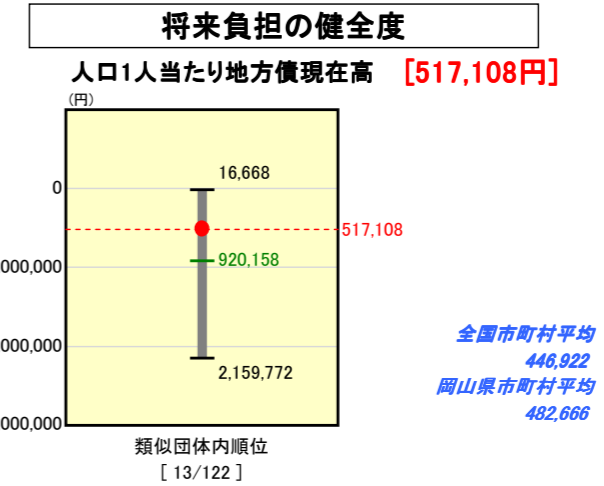
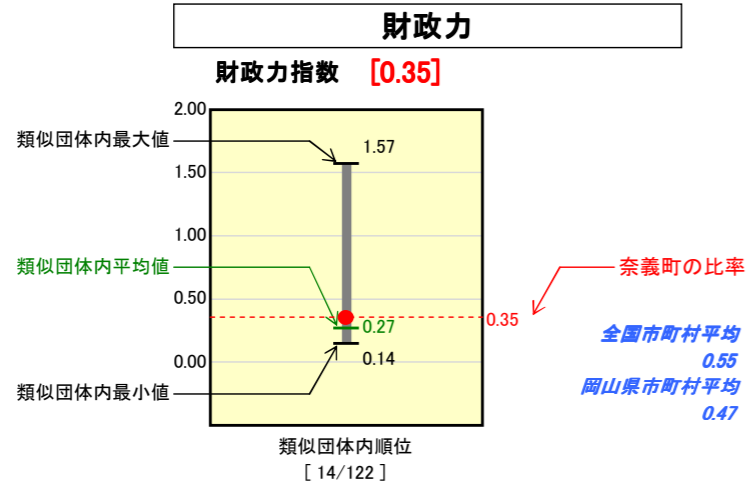


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

岡山県 奈義町

人口	6,493 人(H20.3.31現在)
面積	69.54 km ²
歳入総額	3,343,802 千円
歳出総額	2,930,409 千円
実質収支	413,393 千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数: 税源移譲等の影響により財政力指数の分子である基準財政収入額が増えたものの、分母となる基準財政需要額も下水道の起債額の増により増えたため、結果的には類似団体の中でも高水準にあるが、引き続き税率等の徴収率などの向上に努め、安定した歳入の確保を図る必要がある。

経常収支比率: 義務的経費の人件費・公債費が減少するとともに、経常経費の一般財源となる地方税・地方交付税の確保ができたため、昨年に引き続き、全国平均及び類似団体より下回っている。行財政改革の計画のもとに、歳出削減に努め、現在の水準を維持していく。

実質公債費比率: 近年新規起債の抑制は実施しているものの、平成19年度においては、全国平均及び類似団体平均を上回っている状況にある。昨年と比較し、実質公債費比率は0.3%ポイント下がったが、今後上水道事業・下水道事業の繰出金の増大が懸念されるため、公営企業・特別会計の補助費・繰出金等を見直し、健全な財政運営を行っていく必要がある。

ラスパイレース指数: 全国平均及び類似団体の中でも低い水準になっている。今後も人事院勧告に基づくとともに、民間企業の平均給与の状況を踏まえ、給与の適正化に努めていく。

人口1人当たり地方債現在高: 平成19年度は一般公共事業・災害復旧事業等に係る新規起債があったが、従来のような大型事業による起債がなく、昨年度より1人当たりの地方債現在高は減少し、類似団体平均を下回っている。今後も新規起債の抑制を引き続き行い、水準以下に抑えていく。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額: 人件費、物件費及び維持補修費の合計額が類似団体を下回っているのは、公共下水道切替に伴う庁舎等の修繕工事の関係で維持補修費が増となったものの、定年退職、勤奨退職者等の増による人件費の削減が主な要因となっている。今後も経常経費の徹底した見直しにより事務経費の削減に努める。

人口1,000人当たりの職員数: 全国平均を上回っているが、定年退職、勤奨退職者等の増により、類似団体平均と比較すると職員数は低い基準にある。今後も住民サービスの低下を招かないよう、より適切な定員管理に努める。